

～まちに顔見知りがいると安心できるね～

『隣人祭り』について

ご近所さんとのほどよい距離と長いおつきあいの知恵、、、
大きな地震があったばかりの今だからこそ、あらためて見直したい。

2011年7月9日（土）
明治学院大学白金キャンパス
本館10階大会議場にて開催し
ました。
72名のみなさまにご参加いた
だきました。ありがとうございました。
した。

『隣人祭り』[La Fete des Voisins]は、
1999年フランス、パリの小さなアパートでおきた高齢
者の孤独死をきっかけに、住民たちが建物の中庭に
集まり、交流のための食事会を行ったことから始まり
ました。

ご近所さんが集まってお茶や食事をする事。「準
備がたいへん」「人をおおぜい集めない」と。そんな心
配をしないで、もっと気軽に集ってみようよ、という
活動。

日本に昔からある隣人文化の知恵を、いまの暮ら
しにあったスタイルで見直そうというのが「隣人祭り」。
(隣人祭り日本支部サイトより抜粋)

都心エリアで、『隣人祭り』をひらいている方々から、実践報告を伺いました。
まちに顔見知りがあると、子どもも大人も安心できる一。大きな地震のあと、普段以上
にそう感じられた方も多いのでは？ まちに顔見知りをふやす工夫を、『隣人祭り』の
取り組みから学びました。

●実践報告：

- ・隣人祭り日本支部 スティーブ・ジャービスさん
 相模原のコンシェルジュ 池田力さん
- ・千代田区内の町会による取り組み
 千代田区社会福祉協議会 梅澤稔さん
 千代田区内の西神田町会 角田光正さん
- ・中央区内の子育て支援マンションの取り組み
 NPO法人フローレンス 今給黎辰郎さん
- コーディネーター：坂口緑（本学社会学部准教授）



◆コーディネーター

坂口 緑 (明治学院大学社会学部 准教授)



◆コーディネーターよりメッセージ: 電車に乗って会いに行く、気心知れた友人との交流は楽しいけれど、近所の人たちとももっと知り合いたい。出身も趣味も世代も異なる人たちと、ただ近所に住んでいるというきっかけでつながっていきけるのだとしたら、私たちの暮らしはどれだけ豊かになるでしょう。フランスで始まった「隣人祭り」は、都市に暮らす人々が、つかず離れずのご近所づきあいを無理なく実践する仕組みです。今年の「地域こぞって子育て市民講座」では、日本各地や千代田区、勝ちどきでの取り組みに学びつつ、東京らしいソーシャライズの方法を探ります。次の週末、誰かに声をかけてみんなで集まりたくなる、そんな講座になればいいなと思っています。

◆坂口緑(さかぐちみどり)プロフィール:

明治学院大学社会学部社会学科准教授、生涯学習論専攻。2000年東京大学大学院博士課程単位取得退学。2008-2009年デンマーク・オーフス大学客員研究員。

共著に『ポスト・リベラリズムの対抗軸』(ナカニシヤ出版)、『政治の発見シリーズ つながる』(風行社)、訳書にマイケル・サンデル『民主政の不満』(勁草書房)ほか。同じ大学の勤務する女性教員3人で、ワークライフバランスを考えるアーリー・ホックシールドの刺激的な論考『タイム・バインド』(明石書店)を翻訳、2011年12月刊行予定。フリーの編集者の夫と小学2年生の男子の3人家族。

みなさん、暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、隣人祭りの取り組み方、あるいはどんな人が集まっているのかについて話し合うめったにない機会です。

隣人祭り日本支部からスティーブ・ジャービスさんを招いています。隣人祭りの取り組みは、日本各地で少しずつ進んでいるようです。その様子はホームページなどで見ることはできますが、かかわっている人たちが一堂に会して、どんな取り組みをしているのかを話し合う機会は、もしかしたら日本でも初めてかもしれません。

◆実践報告:

隣人祭り日本支部 スティーブ・ジャービスさん

la fête des voisins
隣人祭り

隣人祭り
もっと住みやすい社会を目指している。

Steve Jarvis
日本隣人祭り支部





隣人祭りとは

- ・「隣人祭り」とは、ご近所さんが集まってお茶や食事をする事
- ・べたべたしたくないけど。。。距離を越える
- ・あいさつぐらい
- ・基本は気軽い形
- ・食べ物・飲み物中心



なぜ隣人祭りが必要か

- ・無関心社会に抵抗する市民運動
- ・一人暮らし・個人主義
- ・忙しい生活
- ・複雑な人間関係



隣人祭りの歴史

- ・「隣人祭り [La Fete des Voisins]」は、1999年フランス・パリの小さなアパートから始まった市民運動。
- ・アタナース・ペリファン
- ・無限社会の苦しさ
- ・何かやらなきゃ
- ・住民たちが建物の中庭に集まり、交流のための食事をを行ったことから始まりました。
- ・第一回800ビル、1万人
- ・現在では世界中32か国
- ・1000万人が参加する市民運動



私は、2011年2月から隣人祭り日本支部の代表になりました。隣人祭りについての枠組みやコンセプトを説明します。

まずは、「ハロー」です。コミュニティには、いろいろなメンバーが入ってきますが、何より重要なのは挨拶です。挨拶をしたくても知らない人とか、まだ挨拶をしていないというケースがあります。私も自分の住んでいる町やアパートの中で、話しかけにくい状況があるので、これは世界中どこを見ても共通だと思います。

隣人祭りは、食べ物や飲み物を中心にして、近所の人が集まる場所を作ります。すぐ近くに住んでいる人ですから、べたべたしたくない気持ちが割と強いと思いますが、その距離を越える機会が何か必要です。挨拶は非常に重要です。やはり挨拶ができないと、違和感があり気楽に住めない状況になります。挨拶ができる状況にすれば、気楽に住めます。

隣人祭りは、基本的に軽い気持ちです。重い気持ちで参加するのではなく、喜びやすいとか、挨拶しやすいとか、話しかけやすいかたちにするといいです。

ヨーロッパの基本のかたちは、5月の最後の火曜日を「隣人祭りの日」と決めて、みんなが参加している場所で、食べ物を配って、話しかけて、仲よくできる状況を作ります。

インターネット社会となり、いろいろなものが変わりました。無関心社会とか、いろいろな言い方がありますが、日常生活で違和感のある人が結構います。それがなぜ出てきているかは、非常に興味深いです。

近代の社会では、ひとり暮らしの人や、一家族が父親と母親と子どもだけ、あるいは夫婦だけで住んでいる人が多いです。現代社会は、個人主義だから、1人で平気で暮らせる、自分の命は自分で決めるという気持ちが強く、これは社会に対していろいろな悪影響があります。

人嫌いとか、忙しい生活とか、日常の生活であまり余裕がないとか、協力する気持ちが簡単に出ない状況になっています。それぞれのかたちで、みんなは交流したいのですが、忙しいという気持ちが強いのでできないとか、複雑な人間関係もあります。仕事の関係、学校、同級生、友だち、近くにいる人とか親戚などいろいろあります。自分の生活の中にいる人が多く、どうやって管理するかは非常に難しいところです。

近くに住んでいても距離があって別に構わない、という考え方が合理的だと思われていますが、やはり悪影響があります。それが原因で、隣人祭りが始まりました。

アタナース・ペリファンさんは、1990年パリのオフィスに勤めていました。問題があって、ある住宅街のアパートに呼ばれたら1カ月ぐらい前に亡くなった高齢の方が見つかり、彼は非常にショックでした。なぜ、このように無関心な現代社会の状況があるのか、何かやりたいと強く思ったのがきっかけで、隣人祭りは始まりました。

最初は、自分のアパートでチラシを配って仲間を作って、100人ぐらい集まりましたが、すぐにパリの各地に広がり、11年たった今は、世界中の32カ国に組織が広がって、今年は1千万人が参加しました。非常に成功しているので、時代に合っている運動だと思います。

隣人祭りの成功には、時代に合っている理由があります。みんな忙しい生活の中で余裕がありませんが、多くの人は違和感を持っています。挨拶をしたい、すぐ近くの人と少しだけ仲よくしたいという気持ちが強いからです。

隣人祭りの特徴は、基本的に簡単なやり方で、それほど複雑な準備が必要ではないので、誰でもどこでも簡単にできます。もうひとつは、非常に低コストでお金がかからないので、誰でも参加できます。その上、自由なかたちでできます。住宅街のすぐそばの公園とか、いろいろところで、少し空いているスペースや人が集まりやすい場所があれば、どこでもすぐにできます。それだけではなく、距離を考えます。みんな大体同じ気持ちで、べたべたしたくありません。たまにやっって、1年に3回ぐらいでも話しかけているから関係が強くなり、いざというときに支援ができる関係になるので安心できます。

隣人祭りの成功レシピ

- 必要がある
- 簡単
- 低コスト
- 自由な形
- 距離を守る
- 力になる舞台(日常問題・悩みなど)
- 関係を作る機会は気持ちいい!



隣人祭りは、人脈のある程度のきっかけになるようです。挨拶もできないと、すぐ近くにいる人が実際に何をやっているか、どのような援助ができるかは全くわかりません。だから、少しは会って話しかけて、どのような人が大体わかったら、喜んで助ける人がたくさんいます。

例えば、子どもの面倒を見るとか、駐車場を借りるとか、アドバイスとか、手続きの方法とか、ルールの説明とか、いろいろな情報交換の機会が、知り合いになれるところですよ。

悩みもあります。隣の人がうるさくて文句を言いたいが、少し距離があつて怒る可能性があり、違和感を持つ人が多くいます。実際に会ってどういう人かを知り、「夜中にうるさいから静かにしてくれ」と言えば、喜んで音量を下げるケースがかなり多いと思います。そうすると、関係がリカバーすることもあります。この気持ちがあれば、やはり気持ちがいいです。みんな楽しんでいるからこそ成功したと思っています。それだけではなく、距離を考えます。みんな大体同じ気持ちで、べたべたしたくありません。たまにやって、1年に3回ぐらいでも話しかけているから関係が強くなり、いざというときに支援ができる関係になるので安心できます。

隣人祭りは、人脈のある程度のきっかけになるようです。挨拶もできないと、すぐ近くにいる人が実際に何をやっているか、どのような援助ができるかは全くわかりません。だから、少しは会って話しかけて、どのような人が大体わかったら、喜んで助ける人がたくさんいます。

例えば、子どもの面倒を見るとか、駐車場を借りるとか、アドバイスとか、手続きの方法とか、ルールの説明とか、いろいろな情報交換の機会が、知り合いになれるところですよ。

悩みもあります。隣人がうるさくて文句を言いたいが、少し距離があつて怒る可能性があり、違和感を持つ人が多くいます。実際に会ってどういう人かを知り、「夜中にうるさいから静かにしてくれ」と言えば、喜んで音量を下げるケースがかなり多いと思います。そうすると、関係がリカバーすることもあります。この気持ちがあれば、やはり気持ちがいいです。みんな楽しんでいるからこそ成功したと思っています。

2008年に、私は日本の第1回隣人祭りに参加しました。そのときから、隣人祭り日本支部が始まり、どんどん広がっています。日本では、支部で登録した公式な隣人祭りのケースが100例以上あります。隣人祭りではなく住民の力でやっているケースも、この何倍もあると思います。

雑誌ソトコトに掲載した第1回は、近所に人が集まって話しました。中央にいる人は、福岡伸一さんです。その後ビルの中や職場など、いろいろなところで隣人祭りが行われています。同じビルで働いていても挨拶しにくい状態があつて、隣人祭りをしてその壁を越えるなど、成功しています。

最近建てられた住宅街でも、最初の出会いとして非常に役に立ちました。シブヤ大学というキャンパスのない社会人向けの大学で、昔の小学校で授業を開いています。近所の人、いきなり外から入ってきた人の顔を知らないの、どのような人かいるかという違和感を減らすために隣人祭りを開催し、成功しました。

公式の隣人祭りは、隣人祭り支部に登録します。いろいろな支援グッズがあります。やり方は、まず近所の共通の考えや興味のある人が集まり、その中でコンシェルジュをつくります。運営の中心は1人でもいいし、数人でもいいですが、仕事を分担できれば、仕事を減らして運営や参加がかなりできると思います。

詳しい情報は、「隣人祭り」とネットで検索すればすぐ出てきますが、質問とか何かあれば、支部に直接電話でもファクスでもかまいません。



「隣人祭り」日本支部 事務局
〒104-0045 東京都中央区築地7-12-7 築地FTSビル5階
一般社団法人/バスクラブ内
tel: 03-3549-1865 fax: 03-3549-1013
mail: mail@rinjinmatsuri.jp

隣人祭り日本支部設立

- 2008年には日本でも初めての「隣人祭り」が東京・新宿で開催されました。



日本全国で開催されています

- 2008年以降 100以上の公式な隣人祭りが開催しました。

金谷コンシェルジュのマンション住民「隣人祭り」(石川県)
佐久間コンシェルジュによる「隣人祭り」(福岡県北九州市)
山崎コンシェルジュによる「隣人祭り」(鹿児島県肝属郡)
松下コンシェルジュによる「隣人祭り」(大阪市天王寺)
井上コンシェルジュによる「隣人祭り」(広島県呉市)
下田コンシェルジュによる「隣人祭り」(栃木県宇都宮市)
東京中央「隣人祭り」(東京都中央区・築地本願寺)
全いちのみや「隣人祭り」(愛知県一宮市)
伊勢コンシェルジュによる「隣人祭り」(秋田県能代市)
野口コンシェルジュによる「隣人祭り」(静岡県静岡市)

公式な「隣人祭り」の コンシェルジュ・システム

- 隣人祭り興味がある人を集める
- コンシェルジュを決める。
 - 隣人祭りの運営の中心(Hub)
 - 役割分担(広告など)
- 公式な隣人祭りの形なら登録
 - コンシェルジュが登録 (ウェブでwww.rinjinmatsuri.jp)
 - 隣人祭りキット(ソトコト一年間購読を含む)
 - 名詞、チラシ、ポスターなど支援グッズ



お隣さんとの距離がはるかに近くなる。隣人祭りの楽しさを味わってほしい。

隣人祭りのはじまり、はじまりっ!!
 相模原市南区大野台のふだん回覧板が廻っている15世帯からなるひと区画です。戦後、この地域は、森や畑、相模原という一面の原っぱでしたが、高度経済成長とその後の動きで住宅地化しました。今は森が多少残っています。まんなか辺りの台形部分が、私の住んでいる自治会の回覧板を回す区画で、全部で14所帯あります。これが地理的な背景です。

「面白そうだから取材させてください」と来て、雑誌ソトコト載りました。ステーブさんとは、これ以後知り合いになりました。私が新聞で隣人祭りのことを初めて知ったのは、2年前の2009年です。私は、「これはいい!」とぴんと来ました。みなさんがここへ集まっている動機も、世の中に何か問題を感じているからだと思いま

LOHAS club LOMAS WISDOM

みんなでつくって、一緒に食べよう。
 グランドメゾン吉祥寺コートのみなさん

LOHAS club LOMAS WISDOM

新丸ビルは一大町内会!
 吉田健馬さん

LOHAS club LOMAS WISDOM

もう一度学校に行こう!
 シンヤ大学の学生のみなさん

LOHAS club LOMAS WISDOM

◆実践報告:
隣人祭り日本支部
相模原のコンシェルジュ 池田力さん

私自身は、なんでコンシェルジュというハイカラな名前と呼ばれるのかと思いますが、言い出しっぺだからだと思います。

ステーブさんが、コンシェルジュ登録と日本支部の手続きについて話しましたが、私の場合は、それらにあまりとらわれず、自己流でやってみました。かえって、それでうまくいったのかもしれない。

私たちの町内でやっていますが、合言葉は、「無理しない、無理強いない、無視しない」です。無理強いも嫌だし、誰かをしかとする関係にもなりたくない、ということで無理をしないでやっています。

私たちの町内は、相模原市南区大野台のふだん回覧板が廻っている、15世帯からなるひと区画です。戦後、この地域は、森や畑、相模原という一面の原っぱでしたが、高度経済成長とその後の動きで住宅地化しました。今は森が多少残っています。まんなか辺りの台形部分が、私の住んでいる自治会の回覧板を回す区画で、全部で14所帯あります。これが地理的な背景です。

大野台の、ある回覧版区画の横丁での
“隣人祭り”
 コンシェルジュ:池田力

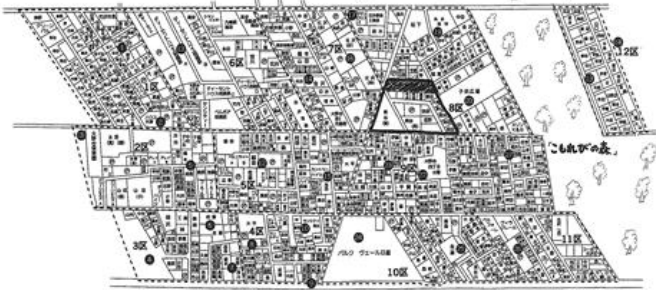
場所:神奈川県相模原市

合言葉

- ・無理しない、
- ・無理強いない
- ・無視しない

やった結果ステーブさんが、「面白そうだから取材させてください」と来て、雑誌ソトコト載りました。ステーブさんとは、これ以後知り合いになりました。私が新聞で隣人祭りのことを初めて知ったのは、2年前の2009年です。私は、「これはいい!」とぴんと来ました。みなさんがここへ集まっている動機も、世の中に何か問題を感じているからだと思いま

(相模原市南区)
大野台△自治会略図
(大野台地区の道と駅と商店の位置関係)



※ 大野台自治会は2区に分かれ、各1区は各団体に属しています。
各団体の組織は分かれて、団費を各々支払っています。1区は
1班、2班、10班計です。大野台の「隣人祭り」は、上記各団体の
各1班1区、1区1班の「自治会単位」で行なわれるのが、便宜上、
1区1班の「自治会」です。

すが、私も何かもやもやしたものが心の中にあって、その新聞記事に関心をもちました。そのまま1年がたち、隣人祭り日本支部に連絡すると、キットが送られてきました。どう使おうかと迷っていたある日、わが家の前を、時々挨拶する高野さんという70歳前のおじさんが通りかかりました。ちょうど秋だったので、東北で芋煮会が始まっているというニュースがありました。それで、「ちょっと何か面白いものをやりませんか。芋煮会なんかもいいですね。たまには集まって飲みませんか」という話をしたのが始まりです。

「実は俺も何かやりたいと思っていたんだ。俺は焼きそばが得意だから、焼きそばでもやりたいな。みんなを集めたいと思っていたんだ」「じゃあ、みんなでチラシをまこう」ということで、この回覧板区画の14軒にチラシを作って回りました。回覧板だと自治会行事とまちがえられるといけないので、回覧板は使いませんでした。

1回目のチラシは文章を工夫しました。いきなり隣人祭りと言っても、みなさんは知らないので、「最近、隣人祭りというものが行われているらしいが、この辺でも何か一緒に飲み食いしませんか」と呼びかけました。その結果、結構集まっていた会になりました。

2回目は、年末に餅つき会をやるということ、このときは隣人祭りという名称を使いました。これがざっとした経過です。

私たちの回覧板区画の地域は、徐々に住み始めた人たちの集まりなので、各家同士のつながりは、恐らく淡泊かつ必要最小限のまま推移してきていたのではないのでしょうか。顔を合わせても、挨拶したものかどうか、はたと迷っているうちに、お互い通り過ぎてしまうこともあったようです。隣人祭りをやった結果、みんなが顔見知りになり、言葉も交わしたということで、今まで以上に気楽に言葉を交わせるような雰囲気になりました。

資料に「やる前にこんな面白いことがありました」と出ています。私の職場で、隣人祭りをやると言ったら、「うちは無理よ。隣の人はすぐうるさい人だし、すぐ陰悪だから、うちなんか、とてもそんなのできないよ」と言う人がいました。それに同調して、もうひとりが、「うちのほうでは、隣の家の庭木が飛び出ている、落ち葉が落ちるのが気に入らなくて、落ち葉をかき集めて、ぱっと、これ見よがしに元へ戻してやった家があるんだよ。うちじゃあ、とても無理だよ」という反応でした。

初めはこのままやって大丈夫か、という心配がありましたが、やった結果、それでこそやったほうが面白いという感じになっています。

隣人祭りは、みなさん1品持ち寄りという形が普通なのですが、私たちの場合は、まだそこまでは行っていません。いずれはそういう形でやりたいですが、最初は芋煮会、2回目は餅つき、3回目は流しそうめん、食で釣ることで集まっている面もあります。

それは、私の3人の仲間が、みんなでも何かをやりたい人がたまたま多く、流しそうめんも、餅つきも、私たちが材料を買って会費制でやっています。ひとつの工夫として、コンシェルジュの方で食事を作るというやり方もあります。思い切っ、みなさん集まりませんか？というのも、それはそれでいいと思います。



◆実践報告:

千代田区社会福祉協議会 梅澤稔さん

千代田区社会福祉協議会(以下、社協)は、地域のみなさんとたすけ合いの活動を進めていこうということで、住民のみなさんと困っている人たちをつなげていくコーディネート機関の役割を担っています。

困っている人と地域の人たちをつなげる中で、エリアも広いので、私たちは、「ご近所」というキーワードにこだわって取り組みを進めています。発行しているかわらばん特別号の中で、ご近所さんについてアンケートをとっています。地域のみなさんに、「みなさん、困ったときに助けてもらえますか」とか、「地震が発生したら、助けを求められる人がいますか」というメッセージを発信しながら、取り組んでいます。

取り組みの大きな柱として、千代田区にある110町会に福祉部を作ってもらい、ご近所さん同士でたすけ合える仕組みを町会単位で作っていかしています。

110町会のうち、福祉部ができていっているのは現在53町会です。町会もさまざまで、人数の多いところと少ないところもあり、各町会の事情に合わせてということで提案しています。

最近、町会のみなさんと話している中で、「『役所や社協だけでは困っている人をたすけられないから、地域のみなさんの手助けが必要だ』と言うけれども、誰がどこに住んでいるか町会も知らないよ」という話がよく出ます。

町会のみなさんは、「昔から住んでいる人たちはよく知っているけれど、千代田区も再開発などで高層マンションが建ってきた。マンションや賃貸アパートなどに住んでいる人は、町会に入っていないので、わからない」と言います。個人情報の問題で、誰がどこに住んでいるかという名簿もないし、作れないのです。

どうしたらいいか、と考えていた時、2008年3月号の雑誌ソトコトに、「お隣さん祭りが大ブレイク」という記事がありました。私は、これを見て非常にいいと思いました。地域のみなさんは、町のためにいろいろな取り組みを一所懸命していて、お祭りもたくさんあります。ですが、誰が住んでいるかわからないのは、多分仲よくなる機会が多くないからです。隣人祭りをきっかけに、地域のみなさんが仲よくなって、困ったときにたすけ合える仲間作りができればいいーという思いで町会の皆さんに、「隣人祭りをやりませんか」という提案を始めました。

たまたま区内の企業から大口の寄付をもらったので、発起人のペリファンさんにフランスのパリから日本に来て講演をしてもらいました。2009年2月号の雑誌ソトコトに、千代田区で講演をしたという記録も入っています。

角田さんは、当時都合が悪く参加できませんでしたが、講演録を渡して、「角田さん、やりませんか。今角田さんがやれば、千代田区で最初になりますよ」と言って実現させました。私ども社協は、直接何かをやるのではなく、地域のみなさんと一緒にやる、あるいはサポートするという取り組みをしています。



◆実践報告:

千代田区内の西神田町会 角田光正さん

神田生まれの角田です。西神田町会は、水道橋と神保町の中間ぐらいで、周りには日本大学法学部/経済学部、大原学園など学校の多いところですよ。

2009年5月に開催した最初の隣人祭りのチラシには、「おフランス生まれの『隣人祭り』を千代田区で初めて開催します。祭りは神田が本場じゃい」と意気込みを載せています。町会員のお茶やさんに講師になってもらい、「新茶を楽しみましょう」というテーマで、コスモス館1階の小ホールで行いました。学校の教室と同じぐらいのところに30名弱の人が集まり、机を4つに分けてお茶を飲みました。後半は、春・夏・秋・冬生まれごとに席替えをして、またひとしきり話して2時間弱でした。お酒なしで、お茶を飲むだけでした。

子ども連れの若いお母さんは、このときが初めて町会行事の参加で、それ以後コンスタントに、町会に顔を出してくれるようになりました。最初のきっかけがよかったと思います。



次は、西神田ファミリー夏祭りという、夏に町会事業でやったお祭りの一環で2回目の隣人祭りを行いました。コスモス館前の屋外に長机を並べて、白いテーブルクロスを掛け、花も置いて、それらしくりましたが、あまり来た人はいませんでした。無料のお茶飲み場になってしまいました。

ファミリー夏祭り自体は、打ち水パレードをやったり、音楽会をやったり、ご縁会をやりました。「千円出すと5円玉のおつり」で、5円玉にひもを付けたものが参加証明でしたが、こちらのほうが盛り上がりました。

隣人祭りを2回やってみて、私としては、祭りという感じがあまり持てなかったのが少し残念でした。祭りと、ズボンやスカートのすそを縫うまつり縫いは、語源が同じだそうで、周辺部が立ち上がる様が、まつりです。私が頑張って企画してしまって、盛り上がっている様がありませんでした。

先日、コスモス館でひとり暮らしの方が亡くなりました。前の前の自治会長で、孤独死といっても、郵便受けから察して金曜日に亡くなり月曜日にヘルパーさんが来てわかりました。足が悪いけれども自治会長まで務めて、町会でも有名人でした。

その方が亡くなって、地方から親族がみえて、密葬して帰られました。住宅の人からお別れをしたかったという声があったので、自治会主催で急遽お別れの会を開催することになりました。

隣人祭りを行った同じ小ホールを使って、祭壇にはそのピアノを使いました。ホテルに勤めている自治会の人、ホテルで使わなくなった厚手の布を持ってきてかぶせてくれました。故人の写真は、私が持っていた写真をプリンターで出しました。同じ階の小学生の女の子が書いてくれたお別れの手紙も飾りました。田舎から送ってきたリンゴがあるからと持ってきてくれた人もいました。指示も命令も仕事の割り当ても何にもしないうちに準備は整いました。

お別れ会には千代田区の区長さんも来てくれました。町会長が連絡してくださったのだと思います。童謡をお経がわりにかけ、参列者には献花をしていただきました。終わってから500円会費で、「お浄め」もおこないました。これもみなさんがよく協力してくださいました。

先ほどの2つの隣人祭りより、むしろこちらのほうが「祭り」でした。本家の隣人祭りもキッカケは同じですね。隣人祭りのカタチだけを追い掛けてはダメですね。

また別の取り組みもあります。私が自治会長もしているコスモス館の1階玄関ロビーに長机を1つ置いて、使わないけど、捨てられないものをお持ちくださいという、「ご自由にお持ちくださいテーブル」を置きました。無人です。年末に1週間ほどやりました。私は自治会長としていろいろな行事をやりましたが、一番手間を掛けないこの取組みが、みなさんには一番反響がよかったです。「私が置いた

ものは、近所のスーパーに行って帰ってくると、もうなくなっているのよ」とにこやかに言われました。提供して、それを誰かが持っていったことを非常に喜んでいました。このとき、もらうことよりも、してあげられることのほうが楽しいのだ、ということに気づきました。

私が町会で隣人祭りの名をた行事は2回だけで、それ以降やっていませんが、こういうことも、ひとつの隣人祭りになると思います。

今年の8月15日に40年ぶりに公園で盆踊りをやります。このキモは、主催が「西神田町会と地域のみなさん」としたところです。隣人祭りのノリのように、みなさんに参加してほしいです。浴衣の着付けは、町会婦人部が手伝います。去年もおととしも、打ち水をやった時、若いお母さんで浴衣を着られない人に、婦人部のおばさんたちが着付けをしてくれて、そこで交流がありました。地域に住んでいる高齢の人たちは、若い地域住民に何かしてあげてを結構喜んでいます。

おフランス生まれの「隣人祭り」を千代田区で初めて開催します。

隣人祭り

ここはニッポン、縁側でお茶を飲む感じ、でやります。

5月23日(土) 午後2時より

4時ごろまでやります。途中退場OKです。遅刻はなるべくしないでください。

祭りは神田が
本場じゃい

無料

西神田町会会員及び
この地区にお住まいの方
幼児から大人まで

フランスのアパートで、ひとり暮らしの老人が亡くられていて、そのことを気が付かなかったことから、もっとみんな、知り合いたい、ということで始まったのが「隣人祭り」です。

日本では昔から、ご近所の人が縁側でお茶飲むという習慣がありました。そんなカタチを復活した「神田の隣人祭り」を開催したいと、西神田町会福祉部は考えました。

ここはひとつ「言い出しっべ」を盛り立ててやるうじやないか、という、心意気でお集まり下さい。お酒は出ませんが、「祭り」の賑わいが生まれると思います。それでは当日お会いしましょう。

今回は

**新茶を楽しみ
ましょう**

というテーマで開催です

主催：西神田町会福祉部

コスモス館1階小ホール

お茶 増田園 / お新香 一膳 / 千代田区社会福祉協議会

今年も暑いぞ！地球を冷やそう！
打ち水パレード

14:00から 西神田コスモス館前スタート
西神田町内を一周します

みんなで打ち水をして
暑い夏を吹き飛ばそう！
コスモス館前に直接
お集りください。

※雨天時はコスモス館内の
児童センターの体育館で
イベントを行います。

今年もイベント盛りだくさん！
西神田ファミリー夏祭り

お隣さんと、仲良くならろう！
隣人祭り neighbors' day aishikakada

14:00から 西神田コスモス館前にて

お茶を飲みながら、
夏の午後をゆっくり過ごしましょう。
お気軽にお立ち寄りください。
テーブルコンサートあります。

参考：隣人祭り日本支部のサイト
<http://www.rinjnmatsuri.jp/main/>

西神田の夏の夜は恒例「ご縁会」

ご縁会

17:30から 神保町ひまわり館3階和室

去年とても盛り上がったご縁会、今年もやります！
出演は、去年に続いてオリジナルの
沖繩ソングを唄う「わらぶー」
沖縄料理などを食べながら、
今年も盛り上がりましょう！

西神田の夏は恒例「ご縁会」
平成21年7月18日(土)開催
西神田コスモス館前、神保町ひまわり館

思い出の作品を募集します！

子供部門 今年のファミリー夏祭りの様子を
今年日記に描こう！
大人部門 今年のファミリー夏祭りの様子を
写真に撮ろう！

子供部門は、コスモス館1階に掲示します。
大人部門は、西神田のお店に掲示します。

作品の提出先
①絵日記は、コスモス館1階ポストに
②写真は、スタジオジモカフ(西神田2-4-9)もしくは
nishikandachoukai@gmail.com まで

締め切り：7/31

①久木田一雄
<http://www.keiichi33.com/>

②堀川「kessan」圭一
<http://commentairez.petit.cc/>

③玉木正昭
<http://www.terra.dti.ne.jp/~tomoyama/tama.html>

④Fujita Yuka Studio
Fujita Yuka Studio
の子供たちのフラダンス

⑤わらぶー
<http://www2.ttcn.ne.jp/~tomoyasuinoue/warabu.htm>

元自治会長
亀井さんの「お別れの会」開催

12月21日(日曜日)午後6時より、コスモス館の1階小ホールにて、
故亀井一元さんの「お別れの会」を開催しました。

祭典
60名も参加がありました

祭花
祭花と講義
石川区長
下川町会長

祭花台と講義
盆踊り

集合住宅での取り組み～西神田コスモス館編～

『ご自由にお持ちくださいテーブル』でみんながハッピー！

西神田コスモス館では、昨年末に西神田コスモス館住宅の1階で『ご自由にお持ちくださいテーブル』を設けました。このコーナーの主旨は、リサイクルの意味もありますが、普段集合住宅のみなさん同士で交流することが少ない中、物を通して交流しようということと西神田コスモス館の自治会が始めました。

コーナー担当の松本さんは、「はじめはどうか全く予想がつかみませんでした。始めてみると住民のみなさんが持ち寄った本や衣類、雑貨などが多数並び、1～2日で内容が入れ変わる人気となり、実施してよかった！」とおっしゃっていました。



西神田コスモス館1階玄関ロビーにて子どもたちも一緒に楽しんで見えています。(写真中央女性・コーナー担当の松本さん)

コスモス館にお住まいの皆様へ
ご家庭で、もう使わないけど、使えるものはありませんか？いらぬものは、必要な時に、必要な方へ・・・自治会もちょっぴりお手伝いさせていただきます。うかな・・・と思います。お財布、服品、カレンダー等・・・(whatは、1F 玄関掲示板をご覧ください。

『ご自由にお持ちくださいテーブル』の表示

みなさんこのコーナーでは「いいものを見つけた！」という喜びよりも、「自分が出したものがすぐなくなった」「誰かの役に立っている」ということに喜びを感じているそうです。
出した側も、もらった側もハッピーになれるこの企画。次の開催が楽しみです。

子色
小さなチカラをたくさん集めて 西神田ファミリー夏祭り

東日本大震災
追悼 復興祈願
8.15 盆踊り



日時 平成23年8月15日(月) 午後5時～8時
5時より、公園内の防災井戸の水を使い、打ち水を行います
緑日、昼食を出します
盆踊りは6時～7時30分の予定です
照明はLEDランプ、発電機等を利用し、節電に努めます
また、スエーデンの旗も掲げて行いますので、ご挨拶、ご協力をお願いします

場所 西神田公園
主催 西神田町会と地域のみなさん
千代田区の防災課がサント、照明器具を貸出してくれました。神保町出所、社会福祉協議会、西神田児童館、在野党も応援してくれています。コスモス館の前自治会長の佐藤幹さんは、盆踊り太鼓を貸出してくれました。

踊りでは、輪投げやヨーヨーを行います。
お手伝いいただける方、また、昼食等の出店をしてくださる方、お店を募集しています。

浴衣の着付け
町会婦人部が
お手伝いします

東北を呑もう 東北を喰らおう
東北のお酒、東北の料理(写真)をご利用します

◆実践報告:

NPO法人フローレンス

今給黎辰郎さん



NPO法人フローレンスは、中央区の勝どきで子育て支援施設をやっています。この中で隣人祭りを行ったので説明します。

最初に、NPO法人フローレンスについてです。2004年に始まったNPO法人で、まだ若い組織で主な事業は3つあります。

病児保育事業は、非施設型で、病気の子どものいるところにベビーシッターを派遣して1日看護します。その間に、親は仕事に行きます。子どもを持つ親の一番の悩みは、子どもが熱を出したときに、どう働き続けるのかという問題です。その支援をしようとして2005年から始めました。

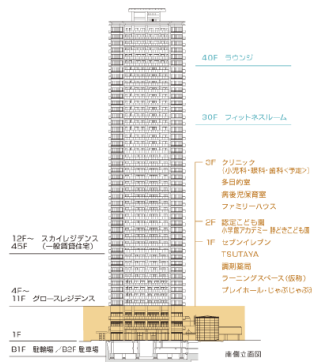
2010年から、おうち保育園事業を行っています。新聞に出ている待機児童問題ですが、横浜市や江東区は本当に預けられない状況です。それを少しでも解決できるよう、マンションの1室を借り10人ぐらいの定員で子どもを預かります。預かることによって、来年から働けるといった親が今から働ける状況になるサポートをしています。今年2011年4月から、コミュニティ創出事業として子育て支援マンションが始まりました。大江戸線勝どき駅から徒歩2分のところに、アパートメンツタワー勝どきというマンションがあります。ここは、もともと東京都の土地でした。東京都から子育て支援ができる新しいマンションを造ってほしいということで、大成建設とディベロッパーの東京建物、NPO法人フローレンスが協力して造りました。

NPO法人フローレンスとは

- 団体名 : 特定非営利活動 (NPO) 法人 フローレンス
- 設立年月日 : 2004年4月12日
- 所在地 : 東京都千代田区飯田橋4-8-4-502
- 代表理事 : 駒崎弘樹
- 主な事業 :
 - 病児保育事業 (非施設型)
東京23区、神奈川県の一部の区、千葉県浦安市
 - おうち保育園事業
東雲/日吉/品川/豊洲/東池袋
 - **コミュニティ創出事業**
子育て支援マンション
「アパートメンツタワー勝どき」

子育て支援マンションとは

【アパートメンツタワー勝どき】
東京都中央区勝どき1丁目
都営大江戸線「勝どき駅」徒歩2分



- 45階建の賃貸マンション
 - 2011年2月から入居開始
 - 4階~11階が子育て世帯専用階
 - 未就学児を持つ100世帯が対象
 - 子育て世帯の70%が3歳以下
- 1階~3階が共用スペース
 - 認定こども園
 - 小児科
 - 病後児保育
 - ラーニングスペース (Mana Viva!)
 - 多目的室
 - プレイホール/じゃぶじゃぶ池
 - コミュニティガーデン

アパートメンツタワー勝どきは、45階建ての賃貸マンションで、4階から11階までが子育て世帯に、一般的な価格よりも少し安く貸し出されています。子どもが大きくなったら契約更新できない条件なので、常に子育て世帯が居続けるマンションです。共用施設として、1階から3階に認定こども園や小児科があり、子育てに必要なものがそろっています。

NPO法人フローレンスは、みなさんが自由に利用できる、グロースリンクかちどきを運営しています。

孤独な子育てをしている親が多いという、孤育て問題についてよく言われます。これが、実際に子どもの虐待やいろいろな問題につながる場合があります。私たちは、コミュニティを作ることで孤育て問題を解決しようと、この事業を行っています。私たちが考えているコミュニティは、大したことはありません。例えば、ヨガが好きなお母さんたちが集まれば、それはただのヨガ好きのコミュニティで、フラダンスが好きなお母さんが集まれば、フラダンスが好きなコミュニティです。小さな集まりやすいコミュニティをたくさん呼ぶことで、家の中に閉じこもるのではなく、外に出て何かしようという意図を持ってもらうところから始めています。

いろいろなスペースがあって、コミュニティを作るいろいろな工夫をしています。ラーニングスペースは、ヨガなどを行えるスタジオスペースです。これは、企業のような講師を呼ぶのではなく、勝どきや中央区内に住む人の中から先生をしたいと思う人を探しています。けっこうやりたい方はいます。今一番人気があるのは、バレエレッスンのコースです。たまたま隣のマンションに住んでいたドイツのバレエ団で活躍していた人が、帰国して子どもを出産し、少し時間ができたのでバレエの先生を始めました。このように地元のスキルのある人を集めて講座をする工夫をしています。

コミュニティを創る仕組み ~グロースリンクかちどき~

Growth Link とは?

Concept

グロースリンクに込めた思い

いつからでしょう。子ども達の声が「騒音」だと言われるようになったのは。いつからでしょう。子育てが「孤育て」だと言われるようになったのは。いつからでしょう。日本が「無縁社会」だと言われるようになったのは。

私達は、子ども達の笑い声が、小川のせせらぎのようにいつも聞こえてくる、そんな場を創りたい。

私達は、子育てを社会全体で分かち合うような、そんな地域社会を創りたい。

私達は、あらゆる世代の人々、子どもや子育てを通して、一つに繋がっていくそんな日本社会を創りたい。

いえ、これは私達の願いではありません。

そう、私達の宣言なのです。



Vision

グロースリンクの目指す社会

誰もが、子どもは親の子どもであると同時に「社会の子」と感じ、子どもと子育てに関わる社会。

Mission

グロースリンクの使命

「子どもと子育てを支える最高のコミュニティ」代を巻き込むを生み出し、全国にそのノウハウを拡散し、社会全体を変革する。

Value

大切にしている価値観

子育て層だけでなく、全世代を巻き込む。門を閉ざすのではなく、地域に開いていく。住民はお客様ではなく、関わることによってコミュニティを創造するものである。

コミュニティを創る仕組み ~グロースリンクかちどき~

ラーニングスペース
(マナViva!)

地元で先生をしたい方と地元で学びたい方とのマッチングを重視している

多目的室

地域の方々も利用できるようにすることによって、ちょっとした集まりを多く開催できるようにしている

プレイホール/
じゃぶじゃぶ池

小学校6年生まで遊べる本格的な遊具を、利用しやすい料金で提供することで、子どもと親が毎日集まる場になっている

コミュニティガーデン

おやこガーデナーを募り、作成物の企画・準備・配置・手入れなどを主体的に行えるようにサポートしている

イベント

誰と誰をつなげるかを明確にしてイベントを企画・実行していく

イベントとして工夫しているのは、マンションが4月から始まったばかりなので、誰と誰をつなげるかを明確にした上でしていこうということです。そこで、4月2日に隣人祭りを開催しました。

これは、いろいろな位置付けがあります。マンションの住民は100世帯で、今年の2月から入居しましたが、3月に地震がありました。初めて引っ越してきたのに、地震があって怖い、隣の人をあまり知らないという状況で、隣人祭りを行ったので、本当に多くの方が来てくれました。

1品持ち寄りをお願いして、とりあえず「マンションの住民、同じ子育て世帯で集まって話をしましょう、私たちも、4月2日から新施設をオープンするので、何とぞよろしくお祈りします」といういろいろな意味を込めて、はじめましての会という感じで行いました。

それほど広くないステーションに大人41名子ども28名、23家族という、とても多くの人が集まりました。アンケートをとりましたが、ほとんどの人が満足したと答えてくれました。

何よりもうれしかったのは、この隣人祭りの開催のあとに5家族ぐらいが、多目的室を使って家族会のようなことを独自に開き始めたことです。月に1回ぐらいですが、CDラジカセを持ち込んで一緒に歌ったり、ひたすらご飯を食べたりとか、いろいろなことをしているのをはたから見ていて、最初の何も知らない状況から、顔見知りになるという壁をきちんと越えさせれば、あとは自発的に広がっていくのだと思いました。

私たちは、このあと5月6日と隣人祭りを開催しましたが、実はあまり集まりませんでした。あるお母さんになぜかと聞いたら、「いや、だって、プレイホールで毎日会っているもん」と言われました。これはもう壁を越えたので、隣人祭りというかたちでやるよりも、もっと違うかたちで祭りやイベントを開催していけば、私たちのコンセプトは受け継がれていくのだと思います。

グロースリンクかちどきでは、子どもと子育てを支える最高のコミュニティ作りをめざしています。会場の皆さんは、コミュニティ作りに関心を持つ人だと思うので、関心がある、施設を視察したいという方は、気軽に声をかけてください。ウェブページも用意しているので見てください。

マンションの多目的室は、マンション住民のためだけに用意されたものがほとんどですが、地域の方に公開して使ってもらいます。子育て支援マンションの多目的室なので、子どもが使いやすい高さの椅子や机があったり、プロジェクターなどの備品もそろえているので、保育園の懇親会や幼稚園のお別れ会など、いろいろなケースで利用してもらっています。

プレイホールは、世界にひとつしかないプレイホールです。3階建ての高さがあり、らせん状のスロープのまん中に、網で編まれた大きなジャングルジムがあります。結構大規模で、小学校6年生まで使える本格的なものです。500円の登録さえすれば、更新料や年会費用なしで提供しています。幼稚園が終わったら、とりあえずそこへ行くという感じで、地域のお母さんと子どもたちが集まる場になっています。土曜日や日曜日になると、イクメンたちが子どもを連れてきます。その間お母さんたちは買い物に行ったりするので、平日と土・日では、がらっと客層が変わります。

コミュニティガーデンはただの畑ですが、マンションの一角にあります。ここで特筆すべきは、おやこガーデナーを募って、その人たちに全部任せていることです。「何を植えるんですか」「何を買いに行きますか」「じゃあ、ハーブを植えましょうか」「じゃあ、それを買ってきてくださいね。領収書が来たら、こっちで精算します」という感じで、振り込みだけして、水やりもすべてをお願いしています。今は、5組ぐらしか参加していませんが、徐々に住民の方たちに任せて育てています。

隣人祭り開催 ～まずはマンション内の顔見知りを増やす～

【表面】

勝どき隣人祭り



～みんなの1品で持ち寄りパーティー♪～

お子様連れ大歓迎！お子様に素敵なプレゼントをご用意しています。
ご近所の方をお誘い合わせの上、是非ご参加下さい！

日時：2011年4月2日(土) 10:00～13:00

場所：アパルトメントタワー勝どき1階 マナVival

参加対象：アパルトメントタワー勝どきにお住まいの方

募集人数：35名(定員に達した場合は、締切ります。)

参加費：大人500円、子ども200円(当日お支払い)

問い合わせ先：NPO法人フローレンス(マナVival運営団体)

担当：森下、檜垣(ひがぎ)

TEL：070-5014-2601(受付時間：10～17時)

MAIL：mansion-info@florence.or.jp

申し込み方法：参加申し込み用紙を、

コンシェルジュカウンターまでお持ちください。



【裏面】

勝どき隣人祭り

～食事をしながら、住民同士の交流を深めましょう！～

アパルトメントタワー勝どきにお住まいの皆さまへ

ご入居開始から、早1ヶ月が経ちました。

皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

4月2日(土)に、アパルトメントタワー勝どき内で住民交流イベントを行います。

はじめての開催となりますので、皆さまお気軽にご参加ください♪

当日のパーティー内容です♪

- ・住民同士のおしゃべりタイム♪
- ・運営スタッフの紹介(森下、檜垣、今給黎)
- ・参加者同士の自己紹介
- ・各施設の利用方法について説明
- ・プレイホールの見学会
- ・マナVival!レッスン紹介 など
- 当日は、インストラクターも多数参加予定！

お子様にはバルーンアート&お菓子をプレゼント◎

＜ご参加いただくにあたって＞

※環境保全のため、マイ箸・マイコップ・マイ皿をご持参ください。

※持ち寄りの品は、食べ物/飲み物問いません。

※手作りでも、購入でも大歓迎です！



さいごに

グロースリンクかちどきでは、スタッフ一丸となって「子どもと子育てを支える最高のコミュニティ創り」を目指して活動しております。そして、このしくみを一つのモデルとして全国に拡げることで社会全体を変えていきたいとも考えています。

ご興味のある方や、視察ご希望の方はお声掛け下さい。

または、

<http://www.gr-link.jp> からお問い合わせ下さい。



＜参加者からの質問＞

コーディネーター坂口：

全体的に隣人祭りの仕組み、運営の仕方に関する質問が多いです。同時に、発表されたそれぞれのケースでどんな工夫をしているか、という質問です。

◎Q1:

隣人祭り日本支部のステーブさんに、隣人祭りキットって何ですか？

隣人祭りを地域化する理由、何で日本支部があるのですか？ほかの国の事情などもおしえてください。

ジャービス 隣人祭りはいろいろなかたちがありますが、公式バージョンがあります。初めに登録してもらう方法です。いちばん低コストで楽なのは、このコンセプトを使って自分でする方法です。

公式バージョンは、キットにいろいろなものが入っています。例えば、ポスター・100枚ぐらいの名刺などの支援グッズです。チラシや契約・説明など、いろいろなものが入っているのでわかりやすいです。ウェブサイトに登録すると郵便でキットを送ります。

なぜ日本支部か？2008年に、雑誌ソトコの黒編集長が、コンセプトとしてとても気に入り、日本でぜひ紹介したい発想ということで、ベリファンさんに直接連絡を取りました。支部は、各国でこのかたちになっているからと思います。

例えば、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、海外でもいくつかの支部があり、「ウイ・オール・ニード・ツー・セイ」という大きな概念があるので、そのひとつの部分として日本も入っています。情報交流などしないと動きにくいという基本の考え方があって、支部にしました。

◎Q2:

池田さんに、隣人祭りの告知、PRについて、回覧板のほかに何がよかったですか？誘い方について教えてください。一本釣りをして参加者を誘いますか？どのような経緯で仲間を増やしていたかを教えてください。

池田 ふだん回覧板がまわっている15世帯に主に呼びかけましたが、回覧板は使いませんでした。回覧板は自治会で回している情報のツールです。自治会の行事も、例えば運動会、バレーボール大会、盆踊りなどときまっています。年度初めに自治会の係や担当を決めますが、決め方を巡って、やらされた感や不公平感が大きいです。

私たちが行った隣人祭りは、自治会とは別です。一緒に集まって食べたり飲んだりしたい人たちが、自治会行事とは別箇に勝手にやろう、というかたちなので、回覧板には載せませんでした。

1回目の芋煮会は、ある程度量がはっきりしないといけなから、参加の確認はしようと、高野さんと2人でチラシを持って1軒1軒回りました。

一本釣りというか、公平に回覧板の町内だけに限らず、誰でもいいから声をかけました。当日はほかの区域からも来たり、自然にうわさが広がりました。

チラシの配布は面倒でしたが、今まではやっています。そのうち隣人祭りそのものが、みんなの中にある程度定着すれば、ポスティングにしようと思います。

◎Q3:

梅澤さんと角田さんに、企画する中に女性がどれくらいいますか。料理を作るのは女性たち、準備をするのは女性たちということになりませんか？お別れ会や隣人祭りの写真に、女性がいないと思う人がいたようです。ほかの地区についても構いませんが、女性たちのかかわりについてお答えください。

角田 女性たちはほとんど何もしません。私どもの女性たちは、みんな私よりも年配の人ばかりで、私は若造のほうです。でも、婦人部は見るに見かねて手を出してくれるという状況で、家庭との関係と同じように、町会では婦人部が強いです。

ただ、町会によっていろいろカラーがあって、婦人部が下働きで全部やって、男は踏ん返り返ってお酒を飲んでいる町会もあります。私どもの町会に関しては、伝統的に割と公平です。例えば、お別れ会のときは、コンビニで乾き物を集めただけです。

梅澤 千代田区全体で言うと、やはり女性が主役と感じます。西神田町会の角田さんたちは、同じぐらいの年代の男性が飲み仲間で、仲がいいと思います。ただ、婦人部と言われる女性たちが主役でやっているところが多いと思います。

◎Q4:

今給黎さんに、地域とのかかわりという点で質問がで、地域のシャキョウとのかかわりはどのような点にありますか？

今給黎 このマンション自体、地元の自治会に入っていないで、これから地域のつながりを作っていく状況です。隣に月島という町があります。先日月島社会教育会館に行って、「何かできないですか」という話をしました。月島は、昔から栄えていた町なので、年齢層が比較的高いです。私たちの勝どきのマンションは若い人たちばかりで、年齢層が違います。そこで、その世代をうまく結び付ける取り組みができないかという話をしました。

その中で、「餅つきをしましょうか」という話が出ました。最近の子どもたちは、餅つきの経験がなかなかありませんし、月島でも大規模な餅つき大会はないという話なので、餅つき大会をやれば、多くの子どもたちと色々な地域の人たちが集まれます。今12月末の開催に向けて進めています。

◎Q5:

特定の方への質問ではありませんが、特に、場所に関する質問が集中しています。空き地や道路は勝手に使用することはできません。どのように使用したのでしょうか？今住んでいるマンションで隣人祭りをやりたいが、マンション内にスペースがない。アドバイスをお願いいたします。開催するにあたり、場所の確保はどうしたらいいのでしょうか？

池田 1回目の芋煮会のときは、わが家の前の2台ぐらい置ける駐車場に釜を据えてやるつもりでした。また隣にも、私の家の駐車場に接して駐車場が1台分あります。向かいにも、道路に面して駐車場が1台分あります。この辺を使いながらビニールシートを敷き、車座のつもりで始めました。

ところが、当日雨になってしまいました。近くの敷地の大きい家に障子を引き払えば20~30人入れる部屋があって、「雨が降ったらうちを使っていいよ」という話が事前にあったので、そこでやりました。その庭にビニールシートの屋根を作って、その下で釜をたきました。2回目は、その方が臼やきねを持っていたので、広い庭先を使わせてもらいました。

3回目は、他の方の駐車場を利用し、一般の車はあまり使わない道路なので、道路も使おうと思います。事前に警察に許可をもらおうと思っています。

◎Q5: つづき

特定の方への質問ではありませんが、特に、場所に関する質問が集中しています。空き地や道路は勝手に使用することはできません。どのように使用したのでしょうか？今住んでいるマンションで隣人祭りをやりたいが、マンション内にスペースがない。アドバイスをお願いいたします。開催するにあたり、場所の確保はどうしたらいいのでしょうか？

梅澤 隣人祭りをやる場所にいいかどうかわかりませんが、千代田区社会福祉協議会では、子育てサロンや高齢者が集うふれあいサロンという取り組みを進めています。要は、人々が住んでいる場所の近くに居場所を作っていく取り組みです。

千代田区は集合住宅や商業地域が多いので、民家でやるのはなかなか難しいです。私たちが取り組んでいるのは、喫茶店やレストランを借りることです。特にレストランなどの飲食店は、昼の時間はとても忙しいですが、夕方は比較的すいています。その時間帯に場所を貸し切りで使わせてもらっています。

参加する人には、例えば喫茶店では、必ずお茶を1杯注文してもらうことを参加費にすると、暇な時間帯にお客さんが来て店にもメリットがあります。参加する人たちも、例えば子育て中の人たちは、ゆっくりお茶を飲みにくいと思いますが、そこでゆっくりお茶を飲むことができます。

◎Q6:

自治会に、千代田区が考えた福祉部という名称の組織があると聞いて、いかにも役所臭くてやぼったい感じがします。実際に神田のグループから見てどうですか。隣組とか、もう少しふさわしい名前があってもいいような気がします。

梅澤 名称は特に決まっていないので、各町会に任せています。千代田区は、町会の取り組みが非常に活発で、地域の皆さんが助け合いの活動をするときに、新たな組織に移るよりも、既存の組織で近所同士の助け合いをしていくのがいいと思ったので、町会の皆さんに提案をしました。ただ、名称については、もう少しいい名称があるといいと思っています。

角田 町会は、入っていない人には、飲んで食って遊んでばかりいる集まりだと思われがちなので、まじめな名前の部がひとつぐらいあったほうがいいと思います。

◎Q7:

事故や子どものけが、何かが壊れた場合等のために保険に入っているか、またはどう対処するのが気になりました。

梅澤 社会福祉協議会で扱っている行事保険があります。一番安い保険は1人30円で、10人集まったら300円で加入できます。港区なら港区の社会福祉協議会で手続きができます。こうした保険に入るのもひとつの手です。

また、主催者側も、ボランティアの責任で事故が起きた場合賠償責任などを求められる場合もあります。ボランティア個人が入れる保険にも入ったほうが、より安全と思います。私たちも、行事時に借りていた三味線を壊してしまい、行事保険で保険会社に請求して全額出してもらったこともあります。

池田 私たちは、本当に地域の隣人祭りなので、近所で集まってやるたびに保険を掛けることはありません。14世帯プラス・アルファでやっているのだから、保険のことまで考えたことはありませんでした。

今給黎 グロースリンク勝どきの場合は、施設賠償責任保険に施設として入り、この保険でカバーされているので、そんなに心配していません。

◎Q8:

やはり場所が問題だと考えています。例えば、公園などでやる場合は、どこかに申請しなければいけませんか。それとも、そのままやってもいいのですか。

角田 行政とのかかわりが出てくると思います。私たちも、公園でイベントをやることがあります。コスモス館の前は公園ですが、私たちがやる場合は、区役所に行って、公園使用の申請をします。ただ、その地域の行政の考え方もあると思うので、個々の活動に貸し出しをするのか、あるいは、地元町会の後援なら、つまり町会長が「いいよ」と言ったらいいとか、そういう言い方をされるかもしれません。

私は、町会行事とか自治会行事なので、場所の借り出しは割とスムーズに簡単にできます。個人が有志で何かやるときは、取りにくいと思います。

ジャービス パリ、あるいはほかの国では、東京に比べ、もう少しスペースがあるところが多いです。が、アパートや住宅街の近くの公園でもいいです。天気予報次第で、多目的ホールのようなところもよく使われます。季節的に考えるとヨーロッパでは、5月なら、外か公園でもいいと基本的に考えています。

坂口 隣人祭りのために公園をどれだけ開いてもらえるかということも、隣人祭りの盛り上げ方次第かもしれません。

◎Q9:

一番気を付けなければいけないことは何ですか？

ご近所の方とつながるために、隣人祭りのようなものを開いてみる、そのときに積極的なことはいろいろあるけれども、気を付けるとしたら、どんな点でしょうか？

ジャービス 気を付けることは、そんなにたくさんはありませんが、原則として、宗教、あるいは選挙のような話や活動は、基本的に遠慮したほうがいいと思います。

もめ事とは全く違いますが、やり過ぎは面倒になる可能性もあるので、短期的で非定期的にしたほうがいいと思います。年に2回か3回なら、その新鮮さが残ります。もし、隣人祭りで仲よくなった人が見つければ、自由に会える方法がありますが、負担がかからないかたちにしたほうがいいと思います。

もうひとつ課題としては、隣人祭りに興味がある人は、結構年配の人です。30代や少し下の人もいますが、40代/50代以降の方の方が多いです。東京のような大都市では、ひとり暮らしをしている20代/30代の若者は、隣人との距離が本当に遠いので、積極的に参加してほしいです。でも、そんなに進んでいません。これから活性化するよう、してみんなで一緒に考えてほしいです。

池田 合言葉は、「無理しない、無理強いしない、無視しない」で、今仲間は私を入れて4人ですが、ぼちぼちやろうか～ということにしています。

今のところ食事をしていますが、それには準備があります。芋煮会をやるにしても、20人分の準備をすると里芋の皮むきも大変です。近所の参加する長の人々が、前の日に、「何かやることないの?」と言ってきて、何とかしのいでいます。そういう大変さも多少はあるので、無理しない、ということをやっています。

もうひとつは、14世帯中で、まだ参加していない世帯が2世帯ぐらいあります。参加・不参加のアンケートによると、「またの機会があったら、ぜひ参加したい」に○をもらっているのですが、拒否感はないと思います。

しかし、仲間と考えましたが、集団が苦手な人もいます。そういう人の負担にならないようにしています。こちらでにぎやかにやっているけれど、その家庭は寂しいということがないように、とにかく、何かあったら声をかけるように気を付けています。

梅澤 私たちは「やってください」と声をかけているほうです。その立場から伝えると、やる人たちは一生懸命成功させようと思っているので、イベントをやることに集中し過ぎないで、参加した人たちと仲よくする役割を担ったほうがいいと思います。

角田さんは、何回かやって今止まっています。例えば、人が来なかったことが結果ではなく、少しずつやっていく中で知り合った人が増えたという成果を感じてもらえるように、私たちからも伝えていくことが必要だと思います。

(◎Q9: つづき)

一番気を付けなければいけないことは何ですか？

ご近所の方とつながるために、隣人祭りのようなものを開いてみる、そのときに積極的なことはいろいろあるけれども、気を付けるとしたら、どんな点でしょうか？

角田 それほどのことをやっていないので言えませんが、福祉部を作ると、社会福祉協議会から助成金が6万円出ます。6万円出るから福祉部を作りましょう。本当は、みんな福祉部のようなものを作りたいのですが、それは気恥ずかしいから、「お金をもらえるからやりましょう」というかたちで、町会の人も、「お金をもらえるから、やるか」という感じです。先ほどの神田の人たちは、本当はそういうつながりを持つのが好きなので、社会福祉協議会が少し押ししてくれるのは助かります。

今給黎 私たちの場合は、マンションの運営者として隣人祭りを開くので、一住民としては参加できません。

例えば、参加している子どもがけがをしないようにするのは結構大変です。子育て支援マンションなので、隣人祭り等々のイベントを開くと、どうしても子どもが来ます。そのマンションに暮らしている人の子どもの年齢構成が、3歳以下の子どもが60人以上いるので、よちよち歩きの子が多く、ちょっとした柱の角にぶつけてけがをすることが結構あります。

特に、隣人祭りをすると、お母さん同士、お父さん同士が話していると、子どもがふらっと行ってぶつけることがあります。私たちが気を付けていたのは、託児所が開いているので、それを生かしておもちゃスペースを設けて、子どもを見る人を2、3人多めに入れて、危なそうな子がいたら、「こっちで遊ぼうよ」と声をかけて、できるだけ親同士が話せるような環境作りに気を付けています。

◆コーディネーターまとめ：

皆さん、隣人祭りを開いてみるという気に少しなってきましたか？
あるいは、やはりハードルが高い、やはり近所でつながっていくのは現代の社会では難しいと考えましたか？

おそらく、今、気を付けなければいけないこととして繰り返し出てきたのが、「無理をしない」ということです。

1人の人が頑張り過ぎない、あるいは1年に何回もしないことがポイントです。嫌だと思ったらやらないほうがいいです。

主催する人たちがホストにならず、招かれた人も、お客様になってはいけません。主催側が肩の力を抜くと、ほかの人たちが手伝ってくれて、一番大変な里芋の皮をなぜかむいてくれて、芋煮会が何とか続きます。恐らく、その力の抜き方がポイントだと思います。

市民活動のようなもので、これだけ「力を抜け、手を掛けるな、頑張るな」というのは、かなり珍しいパターンです。それでも、隣の人と知り合って、挨拶ができて、つながっていくという関係が都市で作られていくとしたら、それは、いろいろな意味でコストのかからない方法だと思います。

まずは、近所に住む知り合いと少し集ってみる。公園の使い方を聞いてみる。地元の社協に、「福祉部のようなものを作るから、6万円ください」と言ってみる。それを元手に何か始められると思います。

